

令和2年度の研究の方向性について

研究主題 幼児期にふさわしい生活の在り方を求めて

研究副主題 やってみよう！の気持ちが続く環境構成と援助

幼児期の教育・保育では、子どもが自分でやりたい遊びを見つけて満足するまで取り組むことや、友達や保育者と協力したり話し合ったりする経験を大切にしています。

また、子どもたちが怪我や事故にあわないよう生活する場所を安全に整え、「お腹がすいた」「眠たい」「楽しい、悔しい」などの子どもの気持ちや欲求に優しく受け答えしながら援助をし、安心して生活できるよう配慮しています。

札幌市の研究実践園では「幼児期にふさわしい生活」という研究主題を共通で設定し、園における教育・保育の向上に向けて取り組んでいます。

幼児期にふさわしい生活って？

- ・興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活
- ・十分に養護の行き届いた生活
- ・友達と十分に関わって遊びを展開する生活



<昨年度の研究より>

主体的

自分で
やってみたい！



☆やりたいことを見つけ、やってみようとする力

遊びの連続性



☆繰り返し遊びを楽しんでいく中で、より楽しくするために考えたり工夫したりする力

環境構成・ 保育者の援助

どうやって
できるかな？



☆やりたいことを自分でできる環境づくり
☆遊びの見通しやイメージをもてるように、視覚化することで興味や期待を高め
ていく保育者の援助



遊びや生活の中での気づきや成功体験が子どもの意欲を育て、幼児期にふさわしい生活に繋がります

視点 『主体的で対話的な深い学びの充実』

環境や遊びごとにグループを分け、子どもたちが主体的に遊べる環境、遊びの連続性をもたせることができる保育者の援助について話し合いました。子どもの遊びや姿を捉えながら、環境を整え、都度環境の再構成を行っていきます。

今後、子どもがやりたいことを実現させていく力を育てていくために、「子どもたちが身につけた力や考え、意見を発信したり活用したりすることができているか」、「そのために必要な保育者の援助とは何か」を遊びや生活の場面から挙げた事例を基に、検証していきます。

クラスだよりやクラス懇談、H.Pで、保護者の方や地域の方々、関係諸機関に向けて、研究の経過や成果を発信していきます。